



たいじゅ もり
大樹の森

12月号

<https://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/es/fudomaru/>



「無理」から「満面の笑み」へ

校長 山下 謙一郎

今年も残すところあと1か月となりました。最近是一年が過ぎるのがあっという間に感じます。「令和」という元号も来年は5年目を迎えます。ついこの前「令和」になったと思っていたのですが…本当に早いものですね。

さて、10月、11月は校外学習が特に多かった2か月でした。昨年度より、校外学習には管理職も必ず引率に加わるようにしているので、校長である私も多くの校外学習に関わらせていただきました。保護者の方々にはなかなか見えづらい部分ですが、先生たちは校外学習の計画に莫大な時間を費やし、万全の準備をしてこの校外学習に臨みます。旅行者と変わらない準備をしている先生方に、私はいつも感謝しています。そこまでして校外学習を行う必要があるのだろうか、と考えることもあったのですが…

11月8日に3年生がスケート教室に出かけました。スケートをしたことがない子どもたちがほとんどで、「無理」「怖い」「できればやりたくない」という不安を口にする子がたくさんいる中でのスタートでした。スケート靴を履くだけでも一苦労、スタンド席で立ち上がる、歩いてみるのも難しい中で、不安はさらに増大しているように見えました。いざ、スケートリンクに入ると、案の定、転倒の連続。ヘルメットのありがたみを感じる序盤でした。

しかし、ここから子どもたちの凄さをまざまざと覚えることになります。転ぶことに慣れた子どもたちは、転んでも意外と大丈夫という自信をつけていきます。そこから、数メートル進むことができるようになり、手すりから手を離して滑れるようになり、滑走時間終了頃には笑顔でリンクを周回する子が続出していました。終了の合図の時には「すべれた!」「もっとやりたい!」「また来たい」とほとんどの子が満面の笑みで話す姿に、このスケート教室だからこそ育つ子どもたちの姿があるのだと感じました。校外学習の実施は本当に大変です。しかし、そこでしか学べない、体験できない「よさ」を知った私たちは、これからも校外学習を大切に教育活動に取り入れていきたいと思えます。